

【高齢者インフルエンザワクチン定期予防接種 説明書】

インフルエンザ予防接種を受ける前にお読みください

インフルエンザ予防接種は、接種を受ける法律上の義務は無く、自らの意志で接種を希望する方のみ行うものです。接種をご希望の方は、予防接種の意味や副反応などをよく理解し、医師とも相談したうえでお決めください。

○インフルエンザとは・・・

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。普通の風邪に比べて全身症状が強く、気管支や肺炎などを合併すると重症化する場合があります。

○予防接種の効果について・・・

インフルエンザ予防接種は、高齢者の発病防止や特に重症化防止に有効であることが確認されています。予防接種後、免疫がつくまでに2週間程度かかり、ワクチンの免疫効果は約5か月間といわれています。

○副反応について・・・

発熱、悪寒、頭痛、だるさ（倦怠感）、接種部位に赤み（発赤）、腫れ、痛みなど現れることがあります。通常2～3日で消失します。また、まれではありますが、じんましん、呼吸困難、運動障害、意識障害などが起こる場合もあります。

もし、ひどい副反応が現れたら、必ず医師の診察を受けてください。

○予防接種健康被害救済制度について・・・

接種後に健康被害が生じ、入院治療が必要となったり、その後に障害が残ったりした場合は健康被害救済制度の対象となる場合があります。

制度の利用を申し込むときは、保健福祉課保健予防班にご相談ください。

・電話：0224-72-3019 FAX：0224-72-3040

裏面もご覧ください。

インフルエンザ予防接種を受けることができない方

- ① 接種当日、明らかに発熱のある方（一般的に 37.5℃以上の場合）
 - ② 重篤な急性疾患にかかっている方
 - ③ インフルエンザの予防接種によりアナフィラキシー(※)を起こしたことがある方
 - ④ インフルエンザ予防接種で、接種後 2 日以内に発熱した方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状が現れたことがある方
 - ⑤ その他、医師が予防接種を行うことが不適当と判断した方
- (※)アナフィラキシーは、じんま疹等の皮膚状況、腹痛や嘔吐等の消化器症状、息苦しさの呼吸器症状が急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合を、アナフィラキシーショックと呼びます。

担当医師とよく相談しなければならない方

- ① 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患等の基礎疾患がある方
- ② 予防接種で、接種後 2 日以内に発熱した方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状がでたことのある方（インフルエンザ定期接種においては、接種を受けることができません。）
- ③ 過去にけいれんを起こしたことがある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
- ⑤ 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器疾患がある方
- ⑥ インフルエンザ予防接種により、アレルギー反応が現れるおそれのある方

インフルエンザ予防接種後の注意点

- 接種後、30 分間は医療機関で様子をみましょう。
- 接種後、少なくとも 24 時間は副反応に注意しましょう。
- 入浴は差し支えありませんが、
接種部位は強くこすらないようにしましょう。
- 当日はいつもの生活をしてかまいませんが、
激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- その他、医師の指示に従いましょう。
- 予防接種後に病院から発行される「予防接種済証」は、
予防接種を受けたことの証明になります。
紛失することがないように、大切に保管してください。

<参考：予防接種済証>

予防接種済証		No.
☐	インフルエンザ（1回目・2回目）	
☐	成人用肺炎球菌	
☐	コロナワクチン	
☐	帯状疱疹（生・不活化 1回目 2回目）	
住所 丸森町		
氏名		
生年月日 大正・昭和・平成・令和		年
		月 日 生（満 歳）
予防接種を行った年月日		
		令和 年 月 日
予防接種を行った医療機関		
丸森町長		印